第430号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311

コツコツだよ

秋も一段と深まり、霜の降りる季節となってきました。日足もずいぶん短くなり、散りゆく木の葉に寂しさを感じるこの頃ですが、皆様お元気でいらっしゃいますでしょうか。

今年は酷暑の夏が長引き、稲穂が異常な暑さで実入りが悪いと聞いていましたが、岡山県南では豊作だと聞き、安心しました。昨年の夏頃から日本人の主食である米が値上がり始め、秋になると新米が出始めるので米価も収まると聞いていました。しかし供給不足で今年になっても一向に価格は収まらず米価が前年より倍となり、政府は備蓄米を取り崩して対処しました。令和の米騒動もようやく静まりかけていたのに、今年の酷暑で米が不作となれば、米価が一段と高くなると心配していましたが、ほんのチョッピリ安心です。

日本の国は昔から瑞々しい稲の穂を産する「瑞穂の国」と呼ばれていました。日本人は米が主食だと言われていますが、昔からお米は上流階級の人しか食べられなくて、一般の農民は稗や粟や蕎麦を食べていたと聞いています。白いお米が食べられたのはお正月ぐらいだったとも聞いています。日本人一般がお米を日常的に食べられ出したのは昭和30年（1955年）頃になってからです。日本の産業構造が変わり、農家の次男や三男が都会の工場や職場に勤め、給料を貰い、少しずつ豊かになっていき、毎日お米が食べられるようになったのです。

最近は農家の後継者が減っています。兼業農家の方たちは田植機、トラクター（耕運機）、コンバイン（稲刈り機）の機械代と肥料代に追われて儲からず、大型農業を目指す人に水田を貸すようになりました。農業用地も住宅地や大型倉庫地となり減り続けています。儲かる儲からないという見方も切実ですが、水田が日本の美しい里山をこしらえ、維持しているのを知っていますか。山に降った雨水が湧き出てきて小さな水の流れを池にせき止め、田に流し、また田の水を諄々と下の田に流し、小溝を流れ、やがて小川となり、大きな川となっていきます。山に降った雨を池でせき止め、少しずつ下流に流して、災害防止の役目も担っているのが日本の稲作農業なのです。日本の美しい里山こそが、下流に住む人々の生活用水に貢献しているのです。

10月6日にスウェーデンのカロリンスカ研究所は、今年のノーベル生理学・医学賞を、大阪大学の坂口志文特任教授（74）らに贈ると発表しました。業績は「免疫が制御される仕組みの発見」です。病原体を攻撃する免疫細胞の中に、免疫反応の暴走を止めるブレーキ役の「制御性T細胞」を発見しました。この細胞の働きが弱まると、免疫細胞が体内の正常な組織を攻撃して自己免疫疾患などの病気になることを突き止めたのです。関節リウマチなどの病気が免疫疾患です。

10月8日にはスウェーデンの王立科学アカデミーが、今年のノーベル化学賞を京都大学の北川進特別教授（74）らに贈ると発表し、坂口教授に続いてのノーベル賞は嬉しいことです。地球温暖化の原因になる二酸化炭素の回収など、様々な環境問題の解決につながる可能性がある「金属有機構造体（MOF）」を開発した業績が評価されたのです。日本のノーベル賞受賞（米国籍を含む）は30人目となり、素晴らしいですね。人生はコツコツが大切。私たちも死ぬまで人間らしく、コツコツ、コツコツ、自分を大切に生きようよ。合掌（奥原　曇龍）

カット：本多紘子

＊心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

『褒められても褒められなくても人間は　コツコツ生きよう自分らしく』　どんりゅう

カット：府川　綾

ともしび説法

日時・十一月三日（月）・午後一時から四時頃まで。
秋の報恩講・永代経法要　　儀式・仏教講演
場所・倉敷市早高426　新本堂　　電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、
お寺についてもっと知りたい方　心光寺　倉敷　検索

お釈迦様ものがたり(109)

古代インドのワッジ国からマッラー国に入られたお釈迦様と従者のアーナンダは、やがて大きな河であるカクッター河に達し、そこで沐浴をして休憩します。

鍛冶師チュンダの出した食事に消化不良を起こして、下痢で苦しんでいた80歳のお釈迦様は沐浴をした後に、きれいな水を飲み、近くの樹下で上着を敷いて横臥されました。

このとき、鍛冶屋のチュンダが、お釈迦様の入滅を聞いて、自分の供養した食事が原因で、お釈迦様が亡くなられたのでは無かろうかと、後悔し悲嘆することの無いように、お釈迦様は、仏に対する成道時（悟った時）の最初の食事と、入滅（死）前の最後の食事との二つは、あらゆる供養の中で最上のものであり、最大の功徳があると言うことを一比丘に命じて、チュンダに告げさせられました。苦痛の際にもかかわらず、お釈迦様の行き届いた心やりの奥ゆかしさが知られます。

幾分疲労が回復したお釈迦様は、ゆっくりと歩みを進め、ようやくにしてクシナーラー（クシナガラ）のサーラ林に行かれた。そしてアーナンダに命じて、双樹の下に、頭を北に向けて、床を敷かせられた。お釈迦様はそこに頭北西面（頭を北に、顔は西向き）、足は南にして静かに横臥されました。右脇を下にしたのも心臓に負担をかけないという意味があると同時に、頭北は頭を北側にして頭を冷やし、足は南側にして足を温めるというインドの健康法でもあり、顔を西に向けるというのは日が沈みゆく方向は死を意識して悔いの無い人生を歩めという教えでもあります。

サーラ（沙羅）林の木々たちが、お釈迦様の涅槃（死）を感じ、時ならぬ花が咲き開いたといわれています。お釈迦様の入滅（死）は何月頃であったかというのは定かでありませんが、南方伝では誕生も、成道も、入滅も5月頃となっています。合掌　（奥原曇龍）

10月4日　総代さんたちによる仏具みがき

ともしび法話

晩秋の日は早く沈む。稲刈りが終わった水田は、黒い大地が何か寂しそう。猛暑が秋まで続きましたが、皆様お元気ですか。

私も8月1日に第二子の男の子を無事に出産して養生していましたが、10月1日からお寺の仕事に復帰しています。11月3日の秋の法要には、皆様ぜひお参り下さい。

心光寺新坊守（ぼうもり）　府川　綾

朝夕少し涼しくなってきました。早いもので、曇龍先生の奥様であった博子坊守様の三回忌法要を11月3日の秋の法要のときに兼ねるそうですが、そろそろ丸二年となり、今から、ここから、頑張って下さい。

総社市駅前　細川カヨ子

11月3日（月）は心光寺の秋の報恩講法要が午後からあり楽しみにしています。御先祖様を偲びつつ、親鸞聖人の生き方から悔いの無い人生を歩みたいと思います。

倉敷市藤戸天城　福原　浩子

「報恩講親鸞聖人偲びつつ
いつまで生きてもいつ死んでも良し」

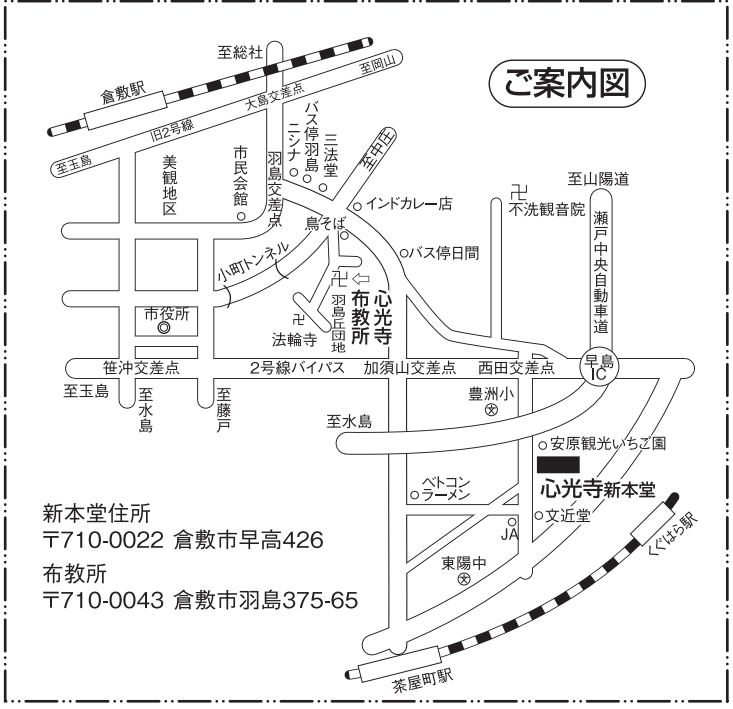
倉敷市中島　山田　孝治

ともしび説法

日時・十一月　三日（月）・午後一時から四時頃まで。
秋の報恩講・永代経法要　儀式・仏教講演
場所・倉敷市早高四二六　心光寺（しんこうじ）本堂にて
電話・（０８６－４２０－１３１１）　駐車場有り
（宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。）

○ともしび説法・お寺の行事予定
十二月　十八日（木）・午後一時半から四時まで・早高の本堂。
一月　一日（月）・午後一時半から四時まで・早高の本堂。
二月　十八日（水）・午後一時半から四時まで・早高の本堂。

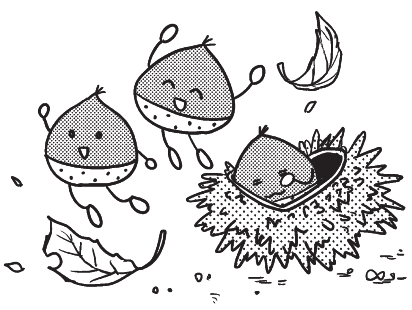
☆『ともしび』を、平成27～29年、平成30～令和2年、令和3年～令和5年と三年ごとにまとめて本としました。毎月1回のお寺の新聞が本となって、過去の忘れていたニュースを思い出し、人生をふり返れます。まとめた本が欲しい方は実費でお分けします。



◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。
倉敷市　立石様　3千円
千葉市　松尾浩文様　2万円

こころの詩

晩秋はなぜか寂しい
枯れ葉が風に舞って庭で遊ぶ
木々たちは冬の準備で忙しそう
熊もイノシシもリスも忙しそう
景色は季節によって変化し
心ウキウキしたり寂しくもなる
晩秋は私を哲学者にする


カット：吉岡美枝

浄土真宗心光寺についてもっと知りたい方
お寺や『ともしび』について知りたい方
心光寺　倉敷　検索

柿腕いで命寂しき小枝かな　御恩御恩と鐘の音響く　田辺多恵子

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗（じょうどしんしゅう）心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話（090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「430号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。11月3日の秋の報恩講・永代経法要の日には倉敷駅銀ビル横の駐車場に11時50分、茶屋町駅西口に12時10分にお寺より自動車でお迎えに行きます。自動車の送迎が必要な方は心光寺までご連絡下さい。合掌　総代長　本家豊彦